

第8回 議員全員協議会

6月15日

震災の復旧、復興は

千年希望の丘

問 東部沿岸6地区の集落は甚大な災害を受けた。復興に向けて市が進めている震災復興会議では、防潮堤を二重にも二重にも考えているようだ。その一つは海の砂浜、次に高い海岸防災林にだいが力を入れており、道路のかさ上げ等も考えているように見受けられる。現段階での具体的な考え方を示していただきたい。

答 津波をどう防ぐか、またいざというときにはどう対応するのかということであり、岩沼市としてはいち早く多重防潮堤ということを目指して進んでいます。防潮堤は国の責任でしっかり復旧をしてもらい、貞山堀の壊滅状況にある一部の護岸は県の方で責任を持って早く復旧してもらいたい。岩沼には、空港三軒茶屋線等がありますので、その道路のかさ上げ等で二重の守りを進めたいと思います。

有害物質等の検査は

問 津波よけの千年希望の丘の案が示されたが、有害物質等の環境面の対策やがれきを使った場合の将来における沈下の問題が考えられる。有害物質等の検査体制についてはどのように考え、あるいは実行に移すのか。

答 がれきの関係については、今はまずがれきをどのようにして1次仮置き場に運ぶかということを中心にやってきています。

田畑の関係については、しかるべき対応をするということの方角付けがされており、がれきの再利用については、当然のことながら

有害物質等について調査をしていかなければなりません。現時点では、まず仮置き場に運ぶところに全精力を傾注しています。

汚泥洗浄処理施設を

問 千年希望の丘について、震災復興会議の中で汚泥の洗浄についてもやりたいと専門家が述べていた。有害

なものについて心配する話も出されている。有害なものなどを除去するため、汚泥の洗浄等を行う処理施設を考えているのか。

答 農地については、まずどうやって除塩をするか。当然、排水路がしっかりとできていて、雨水等があつてそこで洗い流すことができません。しかし、問題は重金属

ということであり、農業改良普及センター等で有害物の調査をしています。その結果により、有害物があるとすればただ単に洗い流すのではなく、土自体を取りかえなければならぬといった状況も出てきます。今は過程の段階でどうこうということはお答えできません。まず十分に状況を調査



岩沼市東日本大震災復興グランドデザイン案に示された「千年希望の丘」